

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	04300000	市民協働部	ひとづくり			
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	K P I	02	総務費	01	総務管理費	06	企画費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！			生まれる赤ちゃんの人数（年間）	目標値	500人		
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て					女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合	目標値	40.0%
小事業	01	女性活躍推進事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	男女共同参画の推進に伴い、女性の就業率等が向上してきているが、子育て中の女性など、仕事のバランスに不安の声は多く、女性の心の面やライフデザイン等に寄り添った支援がこれからも必要である。				
	事業目的	(1) 対象 市民 (2) 目的 ・美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略「カミーノ」のひとつとして掲げる「自分らしく生きられる」ことの実現を目指し、仕事がんばる人も、子育て中の人にも、それぞれのステージで自分らしくイキイキと自分の人生を歩んでもらえることを応援する。 ・笑顔でいられる、輝ける、夢を叶えられるよう一歩踏み出す人の増加を図る。				
	事業概要	・みのかも女性活躍支援センター「Re:Ola[リオラ]」の運営。 R1.1「みのかも健康プラザ」へ移転したリオラを活用したサービス提供を実施。 ・キャリアデザイン、キャリアアップ等のセミナー、相談の実施。 ・カミーノ推進プロジェクトの実施。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	3,969 2,281	5,058 3,746	3,365 1,861	3,837 3,205	2,736
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	50 / 3,300					

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	女性活躍支援センター相談件数	目標値	150	150	150	180	190
		実績値	191	245	257	204	

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	女性活躍支援センター利用者及び講座受講者等満足度(%)	目標値				90	90
		実績値			96.6	98.4	

実 績	実績	・みのかも女性活躍支援センター「リオラ」の運営 ・リオラで行う講座の企画実施 ・「働く女性のためのキャリアアップセミナー」 リオラ来訪者数 1,722人 リオラ講座受講者数 127人
	効果	女性活躍支援センターの運営、セミナー等の実施により、働くことや子育てなど、女性を取り巻く課題に対し、少しでも不安を解消することで生き生きと暮らす、働くことに繋げることができた。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍の影響も無くなり、上方修正した目標値も順調に上回ることができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	過去のアンケート等からセンター利用者のニーズを探りながら事業を進めたことで、相談などの利用者及び講座参加者に実施したアンケートの結果、目標値を上回ることができた。
	実績からR06年度の事業の方向性	引き続き、利用者・参加者のアンケート等を参考に事業を計画し進めていく。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり				
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）				目標値	500人
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					40.0%
小事業	02	地域教育推進事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	学校以外での学習支援や居場所づくりが地域の課題としてある。特に小学校低学年は学習支援ばかりでなく同学年の他校の児童と交流することも重要な活動となる。				
	事業目的	<p>(1)対象 小学校低学年（1年生～3年生）の子ども達</p> <p>(2)目的 小学生低学年を対象とした学習支援や居場所づくりのための事業。また、学習支援ばかりでなく同学年の他校の児童と交流することにより社交性や行動力を養うことを目的とする。</p>				
	事業概要	<p>地域教育コーディネーターを配置して学校と地域との連携を図り、小学校低学年の児童を主対象に地域資源をいかした地域教育推進事業（楽習ひろば）を実施します</p> <p>【楽習広場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センター教室、加茂野教室、牧野教室の3か所 ・学習活動（漢字検定、英語活動、科学実験など） ・校外学習（アクアト、サイエンスワールド、化石学習、名古屋市科学館） ・地域学習（昔あそび、栗さんとんづくり、蜂屋柿づくりなど） 				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,565	4,359	4,484	4,251	4,251
	決算額	2,458	2,886	4,473	4,251	
	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	705 / 4,330				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06	
	グループ活動（館外学習）回数	目標値	15	15	12	13	14
		実績値	0	9	15	15	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06	
	地域教育推進事業「楽習ひろば」参加者数（年間延べ人数）	目標値	5000	5000	3000	3500	3800
		実績値	2991	2757	4350	4166	

実 績	実績	生涯学習センター教室 延べ参加者数 1,782人 加茂野交流センター教室 延べ参加者数 1,223人 牧野交流センター教室 延べ参加者数 1,161人 参加者合計 4,166人 地域学習...読み聞かせ、昔遊び、座禅、茶道等の地域ボランティア団体を講師に迎えた活動。 校外学習...アクアト、名古屋市科学館、瑞浪市化石博物館、サイエンスワールド等施設での見学、体験学習。
	効果	年間に多くの子どもたちが参加して、同学年の他校の児童と交流することができ、社交性や行動力を養うことができた。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍の影響も無くなり館外学習のグループ活動も予定通り実施できた。名古屋市科学館・アクアト・サイエンスワールド・化石博物館などに外かけており、参加率も高かった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍の影響も無くなり予定通り事業を実施できたため、目標値を上回ることができた。
	実績からR06年度の事業の方向性	順調に事業が実施できるようになっているため、引き続き目標を上回る活動となるよう事業内容等工夫して進めていく。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	04300000	市民協働部	ひとづくり			
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数(年間)			目標値	500人	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				40.0%	
小事業	04	ふるさと検定事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	市民がふるさとに誇りをもってまちづくり活動への参加や将来の美濃加茂の発展につなぐための施策が必要である。ふるさとの歴史、文化、風土などについて学ぶことを小学生から大人まで参加することでふるさとである美濃加茂への愛着を深めることができる。															
	事業目的	<p>(1)対象</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生を主たる対象とした市民 美濃加茂市に興味・関心のある市外の人 <p>(2)目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民)総合戦略に掲げる「ふるさと教育」の促進。ふるさと美濃加茂に親しみや関心をもつ市民が生まれ、美濃加茂を愛し、地域の未来を担う人財の育成につながる。 市外住民)美濃加茂についての興味や関心を深め、関係人口の増加に寄与する。 															
	事業概要	小学生(3年生~6年生)を主たる対象として、ふるさと検定事業を展開することによって、みのかもを愛する、地域の未来を担う人財を育む人づくり事業。 WEB版ふるさと検定ページの更新・運営 ふるさと検定ドリルの配布(小学3年生に社会科副読本と合わせて配布する)															
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06											
	<table border="1"> <tr> <td>予算額</td> <td>535</td> <td>335</td> <td>527</td> <td>412</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>306</td> <td>194</td> <td>300</td> <td>245</td> <td></td> </tr> </table>	予算額	535	335	527	412	79	決算額	306	194	300	245					
予算額	535	335	527	412	79												
決算額	306	194	300	245													
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	34 / 0																

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	ふるさと検定ドリル配布者数+ふるさと検定イベント参加者数	目標値	700	700	700	700
		実績値	690	600	664	644

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	WEB版ふるさと検定挑戦者数	目標値	700	800	900	1000
		実績値	802	1030	346	486

実 績	実績	<ul style="list-style-type: none"> WEB版ふるさと検定ホームページアクセス数等 訪問件数:1,300件 うち、検定問題への訪問件数:400件 閲覧件数:2,800件 ふるさと検定ドリル(副読本)配布:650部
	効果	WEB版ふるさと検定では市民に限らず広く、美濃加茂のことを知ってもらう機会となった。ドリルは小学校の授業等で取り上げられる機会があるため、自分が住んでいる町に興味を沸かす故郷への愛着を深めることができた。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	ふるさと検定ドリル配布は例年通りできたものの、イベントに関してはPR不足等もあり目標が達成できなかった。次年度からふるさと検定ドリルの配布は行わないため、次年度以降の活動指標を「ふるさと検定の周知回数」に変更する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	WEB版ふるさと検定をPRする機会が少なかったため目標値が達成できなかった。
	実績からR06年度の事業の方向性	印刷をなくしWEB中心に変更。郷土を知る単元のある小学校3年生以上を対象に、タブレットを使い検定に挑戦しやすくする。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	04300000	市民協働部	ひとづくり			
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）			目標値	500人	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				40.0%	
小事業	14	若者デジタル人材育成事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	若者がプログラミングやデジタル技術に触れる機会が地方では十分でなく、今後デジタル技術を活かした新たな業種が増えていくことが予想される中、美濃加茂市においてもデジタル技術を将来を見据えた関心ごととしてとらえる機会を提供することが重要である。				
	事業目的	(1) 対象 市内小学生から高大学生までの希望者 (2) 結果 デジタル技術への関心を高め、知識や技術を身に着けた若者を育成する。				
	事業概要	「若者がパソコンを自由に使用し、デジタル技術の指導が受けられる場所や機会」を設けることの方角性を調査するため、デジタル技術を活用したものづくりやDXを、若者が見学及び体験する事業（講座や見学会など）を実施し、そのニーズを探る。その調査結果を元に、若者のデジタル技術の向上を目的とした事業を展開していく。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額			1,000	990	
	決算額			976		
	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	100 /			0	

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	講座の参加者数	目標値			60	70
		実績値			36	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	もっとデジタルに触れたい、学びたいと思う若者（保護者等を含む）の数（割合）	目標値			80	80
		実績値			73.3	

実 績	実績	プログラミング講座（入門編） 参加者数21人 プログラミング講座（ステップアップ編） 参加者数15人
	効果	入門編・ステップアップ編として講座を開催したことで、年代に適したデジタルの活用を体験いただくことができ、若者に必要なデジタル教育の方向性が確認できた。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	指導者や機材の数とのバランスから参加者定員を設定したこともあり、目標には届かなかったが、結果として参加者が充実した体験を得ることができた。 令和6年度は取り組み内容を講座開催（1～2回）に変更することから、活動指標を修正する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	ステップアップ編参加者の回答が5割未満の値となったため、目標値に届かなかったが、高校生で既にデジタルに触れる機会がある程度得られる世代であったことも影響していると思われる。
	実績からR06年度の事業の方向性	講座の開催により、若者がデジタル技術に関心を持っていることが分かったため、より若者のニーズに沿った開催内容を検討して実施する。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計			事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり			
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	K P I	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！							
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を							
小事業	01	生涯学習活動推進事業			目標年度	令和6年度				

インプット	事業実施の背景にある課題	生涯学習機会の充実をはかることによって市民の学習欲求を満し、市民の皆さんが生きがいを持って暮らしたり、自己の知識や技術を地域に還元したりできる「生涯学習社会」の構築の機会が必要とされている。				
	事業目的	(1)対象 市民 (2)目的 生涯学習機会の充実をはかることによって市民の学習欲求を満たすことができ、市民の皆さんが生きがいを持って暮らしたり、自己の知識や技術を地域に還元したりできる「生涯学習社会」の構築を目的とする。				
	事業概要	講座企画：市民に多様で豊富な生涯学習機会を提供するため、様々な講座を企画します。 「市民企画講座」 「まちづくり出前講座」 「交流センター講座」 社会教育視聴覚協議会への委託 ・ファミリーシネマの会 ・土曜映画会 ・各種撮影会（成人式など）				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	2,850	2,690	2,671	2,748	3,324
	決算額	77	685	968	2,194	
	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	1,008 /		358		

アウトプット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	生涯学習施設開催講座数	目標値	110	60	60	60	60
		実績値	0	54	48	61	

アウトカム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	生涯学習施設開催事業参加者数（生涯学習センター分）	目標値	9000	1500	1500	8000	8000
		実績値	2992	1146	2128	3520	

実績	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民企画講座（61講座、544人） ・まちづくり出前講座（91講座、2,728人） ・土曜映画会（11回、194人） ・ファミリーシネマのタベ（9会場、195人）
	効果	コロナ禍の影響がなくなり、「学びたい」「始めたい」意欲が高まったところに適切に学習機会を提供することができた。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	近年目標を下回っていたが、コロナ禍の影響がなくなったことで目標値を上回ることができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	過去2年間下方修正していた目標値を上方修正したが、それ以前と事業展開に変化があったことから現実的な数値ではなくなっており、目標値を大きく下回ることとなった。 KPI目標値については、R6年度から講座の開講率等を鑑みより現実的な目標値（60講座（各10回、定員10人）に対して3分の2の充足率）に修正する。
	実績からR06年度の事業の方向性	新規の講師の充実を図り新たな講座の開講を目指すと共に、募集した講座の開講率を高めるため、募集広報等充実させる。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	04300000	市民協働部	ひとづくり			
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）			目標値	500人	
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				40.0%	
小事業	04	若者活躍推進事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	少子化である現在、若者が地域に関わる機会も少なくなっている中、若者が地域に役割を持ち、また若者の視点で地域課題の解決に取り組む機会をつくることは、若者が美濃加茂市に住み続け、またふるさとを愛する心を育むことに繋がり、未来の美濃加茂市を作るうえで非常に重要である。				
	事業目的	<p>(1)対象 青少年（小学生・中学生・高校生）、20代を中心とした青年層</p> <p>(2)目的 若者が地域と関わりながら取り組む活動を支援し、若者の活躍を通したひとづくりを目指します。</p>				
	事業概要	<p>若者の活躍を通したひとづくりを推進するため、若者が地域と関わりながら取り組む活動を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成人式の開催及び実行委員会の活動支援 地域活性化スクールの運営及び高校生の活動支援 <p>フィールドワークやワークショップを通して、若者に新たな気付きや学びのフィールドを提供するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> 里山STEAM事業 若者を対象に、里山をテーマとしたSTEAM教育を展開します。 				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	6,387	6,426	8,011	5,367	3,925
	決算額	5,393	5,267	7,104	5,348	
	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	800 / 0				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	若者活躍に関する実施事業（プログラム）数（回）	目標値			18	18
		実績値			7	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	若者活躍に関する事業に関わった若者の数（人）	目標値			375	100
		実績値			357	

実 績	実績	地域活性化スクール事業関係者数 292人 里山STEAM事業関係者数 40人 成人式関係者数 25人
	効果	若者自身が地域住民や市職員と関わりながら地域課題の解決に取り組む活動を支援したことで、若者が地域に関心を持ち、他の機会においても積極的に地域と関わるようになった。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	実施事業数は目標を下回る数値であるが、各事業で複数回の活動やイベントを実施しており、十分に若者活躍に繋がっている。実施事業の数としては適切であるため、来年度は事業の構成を変更したため目標値も18回から10回に見直す。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍の影響も無くなり、全ての事業を予定通り行うことができた。来年度は事業の構成を変更し成人式を別事業とする。併せて地域活性化スクール事業の中身やSTEAM事業の在り方についても大きく変更するため目標値も375人から100人に見直す。
	実績からR06年度の事業の方向性	R6年度から事業名を「若者と未来をつなぐ事業」に変更し、若者の活躍を通したまちづくりを推進するため、若者が地域と関わりながら取り組む活動を支援します。それに合わせて、成人式については分割し別事業としました。また、里山STEAMはSTEAM人材育成として講演会と講座を行う内容に切替えます。併せて、新たに若者の居場所づくり等の取組みを進めます。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	04300000	市民協働部	ひとづくり			
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	K P I	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！							
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を							
小事業	06	大学との連携推進事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	若者の市外への流出が問題となっており、魅力あるまちづくりが課題となっている。魅力あるまちづくりへの課題解決には当事者（市民・職員）以外の視点として大学等と連携することが必要となっている。				
	事業目的	(1) 対象 大学及び、全国の大学生や市民 (2) 目的 行政が抱える市民生活の課題とニーズを大学の教育研究による社会貢献によって課題解決や再認識することを目的とします。また、大学生の交流人口を増やし、若者から見た魅力のある街として全国に広めていきます。				
	事業概要	さまざまな地域課題を解決するため、首都圏及び地域の大学（早稲田大学、名城大学、中部学院大学、岐阜大学、東海学院大学など）との連携事業や東京大学の学生を中心に「みのかもわーきんぐホリデー」の事業を実施。大学の持つ学術資源や大学生の柔軟な発想を活用した地域課題の解決に向けた事業を行う。美濃加茂市を訪れる大学生の流れを生み出し、若者の交流・関係人口を拡大する仕組みとして、市内宿泊施設を利用した大学生に対する補助金を交付する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,828	1,628	1,628	1,592	118
	決算額	218	874	1,202	1,175	
	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	100 /		0		

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	大学及び学生からの提案実現実績	目標値	3	2	2	3
		実績値	5	2	2	3

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	大学機関及び学生との連携事業数	目標値	4	4	4	6
		実績値	8	5	4	6



実 績	実績	岐阜大学：地域協学センター事業への参加（ひとづくり課・まちづくり課）・大学からの講座講師の派遣 東京大学：みのかもわーきんぐホリデー事業の実施（参加者4名） 中部学院大学：木育の実施（こども未来課）・大学への講師派遣（農林課） 交流学生支援事業：1団体（9名）の宿泊補助 岐阜聖徳大学及び短期大学部との包括協定の締結
	効果	協定締結済みの大学等の協力を得て事業を行うと共に、大学への協力を行うなど連携を図ったことにより、市及び市民が知識を深める機会を得た。さらに、大学へ講師として職員を派遣することで学生が美濃加茂市に関心を持つきっかけとすることができた。また、新たな協定を締結したことで今後の活動もさらに広がることが期待できる。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	ゼミの研究テーマ（木育）のフィールドの提供や講師派遣、新たな包括協定の締結を行うことができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	大学の開催する地域連携会議に出席するなど関係を続けることでコーディネーターの派遣・教員の講座講師派遣などの連携が行われた。（岐阜大学） その他、例年どおりわーきんぐホリデー事業の実施、木育によるゼミ研究・大学への講師派遣（中部学院大）を実施することができた。更にこども未来課の要望により、新たに岐阜聖徳学園大との包括連携協定を締結した。
	実績からR06年度の事業の方向性	引き続き、協定を締結している大学との協力を進めると共に、新たに協定を結んだ大学との新規事業等について検討を進める。 また、みのかもわーきんぐホリデー及び交流学生支援事業は廃止する。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	04300000	市民協働部	ひとづくり			
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数(年間)			目標値	500人	
中事業	03	主要な取り組み	若者のチカラと生涯学習で未来を		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				40.0%	
小事業	07	青少年健全育成推進事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	子どもを取り巻く環境は目まぐるしく変化し、子どもを育てる大人たちもその環境の変化に対応することが必要である。子育ては親だけが関わるのではなく、地域ぐるみで守り、育てるものであるという意識を持つことが重要である。				
	事業目的	(1)対象 市民、青少年、青少年の健全育成に関わる各団体 (2)目的 市民との協働により、青少年の健全な成長を支援する				
	事業概要	青少年の健全育成を進めるために、各団体との連携を図り事業を実施します。 ・青少年健全育成市民会議 少年の主張大会(6月)、青少年健全育成該当啓発(7月・11月) みのかものこどもをたくましく育てるつどい(11月) ・少年センター 定期補導、夏休み特別補導、夏祭り特別補導 ・子ども会 チャレラン、子ども会のつどい、ジュニアリーダーズクラブ活動				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額				2,769	2,701
	決算額				2,766	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	600 /			0	

アウト プ ット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	青少年の健全育成活動実施回数(回)	目標値				90	90
		実績値				95	

アウト カ ム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	青少年の健全育成活動に関わった人数(人)	目標値				450	450
		実績値				347	

実 績	実績	・青少年健全育成市民会議 役員等20人 少年の主張大会(6月)、青少年健全育成街頭啓発(7月・11月) みのかものこどもをたくましく育てるつどい(11月) 参加者170人 ・少年センター 役員等27人 定期補導、夏休み特別補導、夏祭り特別補導 ・子ども会 役員等41人 子ども会のつどい、ジュニアリーダーズクラブ活動 参加者90人
	効果	市民会議主催行事等で青少年の健全な成長を地域で支える意識を広げること、青少年を多くの人が見守り育てる環境を整えることができた。また、その活動が地域の青少年が交流する機会を作り、地域に関心を持ち積極的に交流するようになった。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	巡回補導等の活動を定期的実施しつつ、各種事業を実施することで目標値を上回ることができている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	実施した行事については青少年育成に効果のある内容ではあるが、市民に十分に内容が伝わらず参加者が集まらないなど、コロナ禍で途切れた悪い面が解消できていない。
	実績からR06年度の事業の方向性	実施する事業について、広報やホームページだけでなく、SNSや学校に協力を得て子どもを持つ家庭への積極的な周知を行うなどして参加者を増やす。周知の際には、行事の内容と対象者がより明確となるよう絞って行う。